

1 アレルギーマーチ ～オーバービュー～

Allergy march : Overview

加藤 則人

KATOH Norito

京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学教授

Summary

アレルギーマーチは、馬場によって提唱された概念で、単に一人の患者に複数のアレルギー疾患がみられるだけでなく、異なるアレルギー疾患の発症をひとつの流れとして捉え、「いくつかのアレルギー疾患が原因(抗原)と発現臓器(疾患)を異にしながら経過していく現象」と定義される。当初は、経胎盤感作や経消化管感作、経気道感作がアレルギーマーチに重要と考えられたが、その後の研究によって、経皮感作がより重要であることが明らかになってきた。今後、アレルギーマーチのメカニズムが解明されるとともに、アレルギーマーチを予防できる方策に関する研究が発展することが期待される。

胸腺間質性リンパ球新生因子(TSLP)

表皮角化細胞などの上皮細胞が産生するサイトカインで、樹状細胞やT細胞、マスト細胞(肥満細胞)などに作用して、2型サイトカイン優位の免疫反応を誘導する。表皮角化細胞の炎症や外的刺激などによって産生される。

フィラグリン

表皮角化細胞が産生する。ケラチン線維を凝集して強固な角層の形成に働くとともに、分解されて天然保湿因子として角層の水分保持に寄与する。アレルギー炎症の局所で産生されるサイトカインが、その産生を減少させる。

KEY WORDS

経皮感作／皮膚バリア機能／胸腺間質性リンパ球新生因子(TSLP)／フィラグリン／湿疹・皮膚炎